

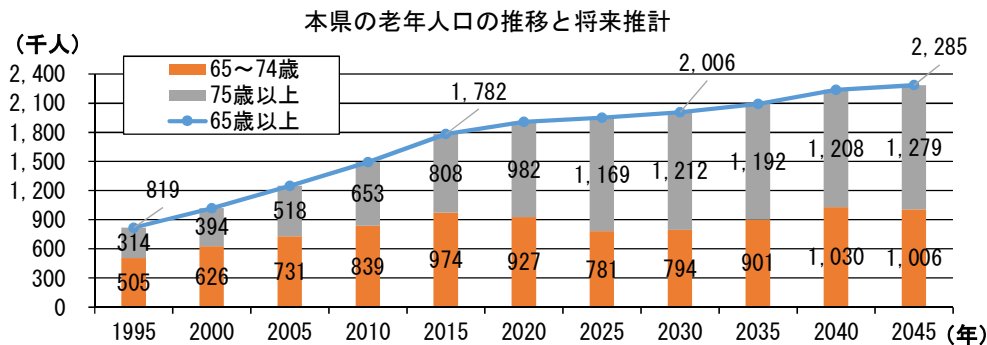
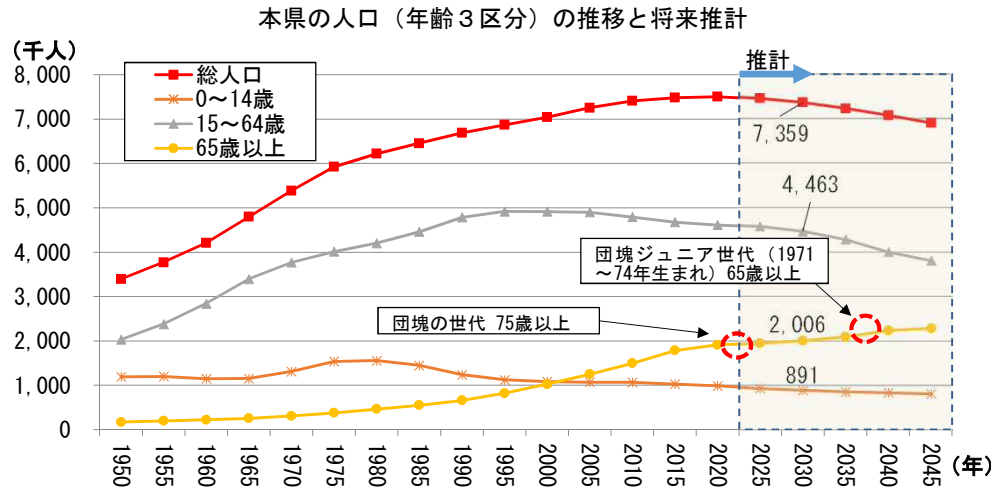
2030年頃の社会経済の展望

【人口の減少、高齢化の進行】

・本県の人口は、2020年頃をピークに減少すると見込まれており、2030年頃には約736万人と、2021年10月時点（約752万人）から約16万人減少する。

・年少人口（0～14歳）は、1980年頃をピークに減少を続けており、2030年頃には約89万人と、2021年10月時点（約97万人）から約8万人減少する。また、生産年齢人口（15～64歳）は、2000年頃をピークに減少傾向にあり、2030年頃には約446万人と、2021年10月時点（約463万人）から約17万人減少する。

・老年人口（65歳以上）は増加し、その中でも75歳以上の人口が増加していく。2020年から2025年にかけて、団塊の世代（1947～1949年生まれ）が75歳以上の高齢者になり、総人口に占める75歳以上人口の割合が大きく上昇する。



出典：2020年までは総務省「国勢調査」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【暮らし・労働・学びの多様化】

・雇用面では、生涯現役で多様な労働参加・社会参加が進むと見込まれる。学び方も大きく変化する。特に、医療・介護については、健康予防への取組や制度の効率化を進めることができれば、高齢者も現役として支える側に回る生涯現役社会が構築される。

出典：内閣府「2030年展望と改革タスクフォース報告書」

・5Gの生活への浸透とともに、AI・IoTの社会実装の進展により、居住地を問わずに業務を継続することが可能となるほか、出張や旅行といった移動時でも業務を支障なく遂行することが可能となる。

出典：総務省「令和2年情報通信白書」

【共助社会の拡大】

・地域コミュニティや多様な市民活動が、副業・兼業の拡大、高齢者の社会参加、寄付文化の普及等を背景に拡大し、官では対応できない新たな公を担う社会（社会的企業、NPO、ESG投資等）が拡大していく。

出典：内閣府「2030年展望と改革タスクフォース報告書」

【第4次産業革命の加速化】

・第4次産業革命とも言われるIoTやビッグデータ、AI等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていくSociety5.0時代が到来する。

・Society5.0時代の到来により、生産・流通・販売、交通、健康・医療、公共サービス等の幅広い産業構造の変革、人々の働き方やライフスタイルが変化していく。

・技術革新の進展により、日本の労働人口の相当規模が技術的にはAIやロボット等により代替できるようになる可能性がある。

出典：文部科学省「第3期教育振興基本計画」

【グローバル化の進展】

・アジアをはじめとするいわゆる新興国が急速に経済成長し、国際社会における存在感が増大する。欧米のみならず、アジアも世界経済の中心的役割を担うこととなる。

・社会のあらゆる分野でのつながりが国境を越えて活性化し、人材の流動化が進むことで人材獲得競争などグローバル競争が激化する。

出典：文部科学省「第3期教育振興基本計画」